



放射線防護基準の意味するもの

原安協プライマーNo.1



田 島 英 三

☆
☆
☆

財団法人 原子力安全研究協会

Nuclear Safety Research Association



放射線防護基準の意味するもの

田島 英三

財団法人 原子力安全研究協会
理 事 長

— 第5回原安協シンポジウムより —

1.はじめに

原子力の安全性の問題は、終局のところ放射線に対する安全性に尽きると言えます。この意味でICRPが長い期間に亘って、放射線防護について勧告を出してきたことは、非常に大きな貢献があったと思います。

ところで勧告を出すためには、放射線が人間に対してどのような作用をするか、その影響はどうか、すっかり分かっていなければなりません。そのために昔から多くの研究者が、この問題を色々な方面から追求していることはご承知の通りです。その追求の仕方には2通りあると思います。1つは放射線の人間に対する作用を基礎過程から明かにしようとするアプローチで、遺伝子や染色体などのダメージが人間のガンの発症にどのような影響をもたらすかを明らかにする研究です。この方面の研究は、聞くところによると、最近非常に勢いで進んでおり、人間の17番染色体にあるガン抑制遺伝子p53などの約10個の遺伝子がガンの発症と深く関係しているか、または、その可能性があることが分かってきたと聞いています。

もう1つのアプローチは疫学調査(Epidemiological Study)です。基礎過程には一応目をつむって、現象的にどんな影響が現れているかを調べる研究です。この調査は放射線に起因するガンの過剰寄与を現象的に決定することができます。

さて、この2つのアプローチは最近非常に近づいてきました。いずれ収斂して、放射線の影響が基礎過程も含めて、完

当資料は、平成5年11月26日(金)に航空会館大ホールで開催された「第5回原安協シンポジウム」の折りに著者が「放射線防護基準の意味するもの」と題して行った講演に若干手を加えたものです。